



学校だより

(11月号) 令和4年10月31日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

【学校の教育目標】

- ◎ 夢 (ゆめ) にむかって ともに学びあう学校
 - ・すすんで勉強する子
 - ・自分からあいさつのできる子
 - ・仲よくたすけあう子
 - ・じょうぶな子

《今月の生活目標》 やさしい言葉づかいをしよう



たくさんのご親切に感謝して

～ 親切の輪 ～

校長 白石 徳一郎

ハナミズキの葉が美しい季節となりました。10月15日には、3年ぶりに保護者の皆様と学校運営協議会委員の皆様にご参観いただき、子どもたち一人ひとりが主役となる素晴らしい運動会を開催することができました。温かいご声援をありがとうございます。今年度は、PTAの皆様や防犯ボランティアの皆様など、多くの皆様にご協力をいただき、運動会前に校庭等の環境整備を行うことができました。10月3日(月)の3回目の環境整備、14日(金)の運動会前日準備、運動会当日の片づけでも、多くのPTAや防犯ボランティアの有志の皆様にご協力をいただきました。お陰様で、大変気持ちのよい校庭になり、運動会の準備や片付けも予定より短時間で終わることができました。教職員一同、心より感謝申し上げます。コロナ禍のため、防犯ボランティア等の皆様にご参観いただけなかったことは大変心苦しく、申し訳ない気持ちでいっぱいです。学校を応援してくださる保護者の皆様、地域の皆様のご厚意に感謝を申し上げるとともに、充実した教育活動や成長した子ども達の姿を見ていただくことで、ご期待に応え、恩返しをさせていただけたらと存じます。



さて、1学期に5年の総合的な学習の時間「だれもが暮らしやすい生活について考えよう」～自分にできること～でご講演をいただいた盲導犬ユーザーの井出様宛に5年生がお礼のお手紙を書いてお送りいたしました。先日、井出様からお礼のお電話をいただきました。井出様は夏休みにさいたま市教育委員会で手続きをして、来年度からさいたま市の社会人講師として登録されることになったそうです。実践を紹介される際、本校の学校だよりやホームページでの活動報告、5年生からのお礼のお手紙が大変役に立ったそうです。本校での取組がお役に立ったことを知り、とても嬉しく思いました。児童のお礼の手紙の一部をご紹介します。

- ・私が一番印象に残ったお話は、「たす(+)ける、ひき(-)うける、声をかけ(×)る、いたわる(÷)」の思いやり算と、「ふつうに くらせる しあわせ」の「ふ・く・し」です。登校している時や、お出かけをしている時に目が不自由な人をたまに見かけるので、困っていたら声をかけてあげたいと思えました。
- ・心の「+ (たす) ける」「- (ひき) うける」「声を× (かける)」「いた÷ (わる)」を少なくとも一日に一つは出来るように習慣づけようと思います。
- ・「困っている人がいたら声をかける」ということが心に残っています。理由は大切な言葉だと思ったからです。
- ・目の不自由な人で道に迷っている人がいたら、相手をビックリさせず、優しく接するということがよく分かりました。今回の授業で習ったことを自分たちの生活にも生かしていきたいです。
- ・井出さんがお話下さった後、家に帰り、点字や手話を覚えました。私は家の前を朝、視覚障害者が通るのでとても役に立ちます。
- ・僕は目が見えない人でも、学校まで連れてって、物とかをどかしてあげて、すごくがんばって、安全にして案内したいです。
- ・井出さんのお話を聞いて、困っている人はだれでも助けようと思いました。

井出様が「福祉は思いやりの心を育てることです。」とおっしゃっていた言葉が心に残っています。そして、困っている人がいたら「大丈夫ですか?」「お手伝いできることはありますか?」と声をかける勇気をもってほしいとおっしゃっていました。子どもたちは井出様の伝えたかったことをよく受け止めていました。思いやりを一日に一つはできるように心がけるという感想は素晴らしいと思います。

運動会ではたくさんのご親切にいただきました。5年生は思いやりの心を教えていただき、感謝の気持ちをお伝えしたお手紙が、思いがけずさいたま市の講師登録のお役に立ちました。たくさんのご親切をいただき、そしてたくさんのご親切をお返しできたら素晴らしいと思います。子どもたちも保護者の皆様や地域の皆様の姿を見て、自分から進んで親切ができる子どもに育ちますようにと願っています。